

令和元年度 第2回桑名市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和元年11月18日（月）
開会 10時00分 閉会 11時30分

2. 開催場所 桑名市役所 5階中会議室

3. 出席構成員

桑名市長 伊藤 徳宇
桑名市教育委員会
教育長 近藤 久郎
委員 松岡 守
委員 稲垣 陽子
委員 安藤 智里
委員 佐藤 強
委員 松香 洋子

4. 構成員以外の出席者

(総務部)

総務部長 松岡 孝幸
総務部次長兼総務課長 金子 洋三
総務課主幹 横山 典子

(教育委員会事務局)

教育部長 後藤 政志
教育次長兼教育総務課長 天野 昌浩
教育監兼学校支援課長 高木 達成
人権教育課長 矢野 道代
教育委員会政策監 梅山 靖洋
学校支援課主幹 尾関 一夫
教育総務課管理係長 丹川 健吾

(産業振興部)

観光文化課長 清水 高幸

(市民環境部地域コミュニティ局)

生涯学習・スポーツ課長 糸見 智博
スポーツ振興・国体推進室長 稲葉 智法

5. 議 題 (1) 桑名市教育大綱（案）について
(2) その他

(1) 桑名市教育大綱(案)について

【総務部長】

皆様こんにちは。総務部長の松岡でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

会議の前に1点ご報告をさせていただきます。本来、傍聴の希望がございますようでしたら、ここで会議の公開についてお諮りするところではございますが、本日、傍聴希望者がおりませんので、ご報告させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、ただいまから、平成元年度第2回桑名市総合教育会議を開催いたします。

本日は、全ての委員がご出席ということですので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議では、桑名市教育大綱案について、ご協議をいただきます。それでは、ここから市長に会議の進行をお願いしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【市長】

みなさま、おはようございます。今日は、令和元年度第2回桑名市総合教育会議でございます。委員の皆様、大変お忙しいなか、ご出席賜りましてありがとうございます。ここからは、私が進めていくということですので、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは事項の1、「桑名市教育大綱案について」を議題といたします。

前回の会議においては、「1 策定の趣旨」から「3 期間」までをご承認いただきました。また、4ページ『「桑名市総合計画—後期基本計画」から抜粋』については、現在、策定を進めております、後期基本計画の内容に沿って、一部変更しております。

そして、前回、ご意見をいただきました、「4 本市教育の現状と課題」以降について、前回の大綱案からの変更提案がございますので、事務局から説明をお願いします。まず、「4 本市教育の現状と課題」の部分について、事務局からお願いします。

【教育監】

それでは、それぞれ各担当の方からご説明申し上げます。基本的には、前回ご指摘、ご助言いただいたことを元に、内容を追加、書き換えをさせていただきます。内容的には、大体同じものについても、全体のバランスを整える意味でも、整えている部分もございます。

時間もせまっておりますので、主な部分について、ポイントを絞ってご説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それではまず、「確かな学力の定着と向上」というところにつきまして、学校支援課長の高木よりご説明させていただきます。

まず授業改善につきまして、ここでは特に現状の学びの状況として、今後を見据えて、一番下の○のところ「ペアグループ学習等を取り入れた、対話形式の学びを進めようとしている」というところがあるのですけれども、まだまだこの手段が、こういったものをやろうという手段目的化の部分が見られて、子どもが受け身になっている、相変わらず授業ではこれが散見されるという旨を、内容として追加をさせていただきます。

それから英語教育でございます。4つの○があるかと思いますが、そのうち下2つですが、一つは中学校の英語教員を対象としたアンケートの中で、授業で50%以上英語を使って授業をやっているところが、2割台から7割台へと改善したということを入れさせていただきました。

それからもう一つ、ALT、JTEを活用しながら、発達段階に応じた一層対話的な言語活動を重視した授業改善というのが現在求められているという、これが課題となりますが、挙げさせていただいていきます。

【人権教育課長】

人権教育課の矢野でございます。次の項目なのですが、「特別支援教育」というところです。前回は「特別支援教育」とその次の項目「外国人児童生徒教育」が、一つのかっこの中で同じ項目として書かれ

ていましたが、それぞれ現状が非常に厳しいというところもありまして、分けさせていただきます。

「特別支援教育」についてです。現在の在籍児童生徒数427名という正しい数字を入れさせていただきました。また次の文章なのですけれども、「支援の必要な児童生徒が、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒というものを含め約1割」というように、分かりやすい文章に変えさせていただきました。

次の○です。こちらの方には、特別な支援を必要とする児童生徒の課題なのですけれども、元々持っている特性、その上に、学習につまずき対人関係の困難さから二次的な障害というもの、不適応を招くケースが見られているという課題を、一つ詳しく書かせていただきました。

続きまして、外国人児童生徒教育です。新たに項を起こしております。こちらは、二つ目の○でございます。現在、日本語の全く話せない児童生徒が、桑名市の方にたくさん転入をしております。このあたりが大きな課題であるということで、こちらの方に詳しく書かせていただきました。児童生徒が日本の生活に慣れること、それから学力を定着させることを課題としております。以上です。

【教育監】

「就学前教育」の項について、説明させていただきます。

ここではですね、一つは子ども達の中で課題としまして、多様な動きの獲得、それから対人関係等のコミュニケーションの構築といった点が、うまくできないというような課題の方を挙げさせていただいております。

それからもう一つは、幼児期が終わるまでに育ててほしい姿っていうのが示されているのですが、このあたりが年長児、5歳児の卒園をゴールと考えるのではなくて、幼小をしっかりと繋いでいくという意味で、学びを連続的なものとして捉えていかなければいけないということを課題として、もうちょっと挙げさせていただいております。

それから次、ICT教育です。この内容については追加をさせていただいた部分ですけれども、一つとしては、ICTを利用する時間が増加していることと、それから、その中で情報活用能力、モラルを含めて身に付けていかなければいけないということと、それから、本市においてはICTの授業改善に向けての有効活用ができる環境が整備されつつあるということと、そして、整備された環境をしっかりと活用できるような教員が必要ということで、教員研修の充実、授業研究の促進が求められているということを挙げさせていただきました。

その次、「豊かな心の育成」でございます。「道徳教育」ですけれども、今現在、大きな課題として、生命倫理、規範意識、人間関係形成力等ですね、そのあたりが低下していると指摘されているということで、これに対して、道徳教育の充実が求められているというところを挙げさせていただいております。

それから、新学習指導要領でもしっかり位置付けられているということで、教科書を使用して授業が行われているわけですけれども、それに対して、子ども達が様々な価値観を認識して、その中で自分が他者と協働して、よりよく生きるための基盤となるような道徳性を養わせていかななくてはならないというところを課題として挙げさせていただいております。

それからもう一つは、学校だけではなく、家庭や地域と連携・協力していくというところで、充実が図られるというところも追記しております。

その次、いじめのところですね、一つはいじめがもたらす大きな影響の点を挙げながら、認知の件数について、全体的には低いというところは挙げてあります。このあたりは、捉え方は色々ありますが、「いじめをしない」に対する児童生徒の意識向上が反映されたということで、説明をさせていただいております。

それから、「いじめ根絶に向けて」というところですが、3つ目の○になりますが、「教員による丁寧ないじめ認知のあり方やチームによる子ども理解」、このあたりについての研修、そして実践というところから、いじめの未然防止と早期発見、早期対応に努めるべきという課題を挙げさせていただきました。

それからもう一点は、昨今大きな問題となっているSNS等による、ネットを利用したいじめというの

がやっぱり増えている傾向にあるということで、このあたりは先ほどのICTのところでも少し触れましたけれども、情報モラル向上等といったところが、大きな課題になっているところを示させていただきました。

次、〈不登校〉でございます。不登校については、これまで桑名の不登校は、全体的には1000人あたりの出現数では、全国や県に比べて低い状況にあったのですが、徐々に県や全国とほぼ同等の数値になってきているということを課題として挙げさせていただきました。

それから、スクールソーシャルワーカー等、専門スタッフの活用の必要性というものを追加しております。

それから下の二つの○ですが、一つは「学校復帰を前提とした従来の不登校対策」というのを、展開するというので、これは法のところに出ています、「学校外での多様な学習活動の重要性を指摘している」ということで、どうしても出てこれないお子さん達の学びをどう保障していくかという視点が必要だという点で、追加をさせていただきました。

それから最後の○につきましては、これも小学校中学校と、ずっと継続した指導支援の重要性というものを挙げさせていただいております。

それから次、(3) 健やかな体の育成でございます。〈体力〉については、概ねこの内容で書かせてもらっております。

あと〈食育〉に関しては、とにかく「健全で規則正しい食生活の大切さ」、これを挙げつつ、「ライフスタイルの多様化等」によって、なかなかそれがうまくいかないところを課題として挙げさせていただきました。その中で、そういった食生活自体が、子ども自身の様々な体の健康もそうですが、学力や体力等、そういったものにも相関関係があるところを指摘させていただいております。

その次、4番「教員の指導力向上」でございます。ここでは特に、子ども達を指導していくために、教員達が力をつけていかなければいけないということで、教員研修の充実という点を挙げていますけれども、教員経験10年未満の教員が半数以上を占めるという点は、この前の案のとおりですが、それに加えて、教員の世代交代が進んでいるということで、昨今、自然退職者が増えているところでの世代交代ということで、特に指導について、しっかり継承されているのかということについて、課題になっていることを挙げさせていただきました。

それから一つ飛ばして、下二つの○ですけれども、すべての園・学校で研修テーマを設定して授業研究をしているということ、それから外部講師を招いて、外部の視点からの指導を受けている学校が増えているという現状、それからもう一つは、これは逆行する課題になるかと思っておりますけれども、先進校での授業公開等に、校外ではあるわけですけれども、こちらの研修機会は、全体には減少傾向にあるとのアンケート結果も出ておりますので、それも課題として挙げさせていただきました。

その次、〈学校の組織力〉でございます。三つの○がございますけれども、まず一つ目としては、特に小学校中心に、これまでは担任が中心となって、様々な課題に対応していたところがありますが、そういった個々の教員の力量に頼った方法は、かなり難しくなってきていると、そんなところを挙げさせていただきました。2点目としては、そういった条項もありまして、教職員集団のチームとして、スピード感を持って対応していかなければいけないということが、重要になってきたということを挙げさせていただきました。

三つ目としては、単に学校だけでやるのではなくて、保護者・地域とか関係機関等の連携をして、チーム学校としての視点を大事にしながら進めていかなければいけないと、そういったような動きを作り出すには教員を育てていかなければいけないという視点で書かせていただきました。

その次、(5) でございます。「教育環境の整備」〈教育相談体制〉というところですが、こちらの方では、中身については大きな変更はございません。ICT教育環境等につきましては、先に述べさせていただきましたので、その問題につきましては、削除をさせていただきました。

その次、〈小規模校対策・安全対策〉ということで、ここは老朽化対策という言い方をしていたのを、こういう言い方に変えさせていただきました。全部で五つの○をつけていますが、一つは少子化の影響を

受けて全体的に子どもが減っているということ、二つ目として、学校の小規模化が進む中で、単学級の学年を有する小学校が半数以上になってきたということ、それから来年度、令和2年度は複式学級対象となる小学校が3校となっているというところで、そういった子ども達の集団が小さくなることでの課題について挙げさせていただいております。

それから一番下のところでは、様々な自然災害の心配されるところで、まず自分がしっかり自分の命を守るといふことと、それから発達段階で、特に中学生を中心になるかと思いますが、地域の一人として行動できる力もつけていかないといけないということと、それから施設面での防災、老朽化対策をさらに進める必要があるという観点で、課題を挙げさせていただきました。

その次、(6)でございます。「地域とともにある学校づくり」ですが、〈コミュニティ・スクール〉については、概ね前回の内容を踏襲しております。

それから次、〈桑名を大切にする子の育成〉ということで、ここでは本市の伝統的な、国内外に誇れるような観光文化資源等も挙げながら、地域に関心をしっかり持つような子どもを育てるといったような、「ボランティアに参加したことがある」と回答する子ども達を育てていかなければいけないが、その割合が下回っているということ、課題として挙げてさせていただいています。

そして二つ目の〇として、地域の発展の担い手となる人材を育てていかなければいけないということです。学校と地域と連携・協働していくことで、「地域の子どもたち」として成長させていくことが、ますます重要になっていくところを課題として挙げさせていただいております。

【スポーツ振興・国体推進室長】

11ページのところで、スポーツ振興・国体推進室の稲葉でございます。よろしくお願いいたします。

11ページの(7)文化・スポーツの振興 〈スポーツ〉の部分、三つ目の項目でございますけれども、まずオリンピック・パラリンピックという大きなスポーツイベントを、しっかり好機として捉えるという意味で、まず表現として「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」と表現を合わさせていただいた、パラリンピックという大きな競技についても、きちんと項目として入れさせていただいたということでございます。

また「みる」「ささえる」という表現でございますけれども、元々漢字で表記させていただいていたところなのですが、スポーツ振興事業を具体的に定めております、「桑名市スポーツ推進計画」においても同様の項目がございまして、そちらの計画で表現しております「ひらがな」の表記にさせていただいたということでございます。以上でございます。よろしくお願いいたします。

【教育監】

前半の課題は以上でございます。

【市長】

ありがとうございました。では「4 本市教育の現状と課題」についての説明を、それぞれ担当からいただきましたが、この内容につきましてご意見がある方はいかがでしょうか。

【松香委員】

6ページの〈就学前教育〉2番目の「社会状況の変化等による生活体験の不足等から、多様な動きの獲得」、「多様な動きの獲得」ってどういう意味なのか。

【市長】

「多様な動きの獲得」とはどういうことなのか。

【教育監】

子どもたちは、その場その場に応じて、様々な、文字通り、動きをしていくことは

【松香委員】

座ってくださいとか

【教育監】

運動的な力とか、様々な場面場面で動きを体得していくことになるのですけれども、そういったところがなかなかスムーズにできない子どもさんもみえると。極端な話が、転んだときにパツと手を出すとか、斜面を登っていくと、当

然体は自然に倒れていくわけですが、そのまま歩いて後ろにこけるとかですね、その辺は極端な例ですが、そういった場面場面に応じた様々な動きですね。

【松香委員】

行動形式ですね。分かりにくいなと思っただけです。

【教育監】

後は道具を使うとかですね。自分の体を動かして、周りの環境に適応していくという部分です。

【松香委員】

全てを含めて

【市長】

なんかこういう言葉は、就学前教育の分野では普通に使われているということなのですかね、「多様な動きの獲得」という言葉は。

【教育監】

そうですね、イメージはされております。なかなか一般市民の方が読まれたときには、今ご指摘いただいたように、分かりにくいところはあるかもしれない。例示をするといいかも。

【松香委員】

あと2、3行、二言三言足すとか。一般的にはパッと分かりにくい。

【市長】

ハサミ使えないとか分かりやすいですね。ハサミが使えなくなるとか、そのあたりは、もう少し分かりやすくという形で。

【安藤委員】

いいですか。

【市長】

はい、安藤委員。

【安藤委員】

関連して<就学前教育>のところで、これ全体が本市の現状と課題ということで、新しく付け加えていただいた<就学前教育>に限らず、桑名市の現状と課題が、明確になってきたかなと思うのですが、その中で就学前教育については、わりと一般的な話かなと思うので、桑名市としての現状と課題っていうのは何なのかな、それこそ動きがとか、コミュニケーションがうまくできないということもそうなのだろうし、三つ目のところの学びを連続的なものとしなくてはいけないとかもそうなんだけど、今、直面している課題とかもつとあるんじゃないかなっていう。まあ施設的な面というのは、教育とは関係はないのかも分からないけど、でもやっぱりその保育園幼稚園、公私関わらず、子ども達にある一定の集団保障をして、保育所でもちゃんと学びを保障していくみたいなの、そういう時代になっているし、桑名市もそれに向けて努力していくみたいなのところもあると思うので、その辺がもっと出てきてもいいのかなと思いました。

特に三つ目の文章はちょっと違和感を覚えて、『「幼稚園教育要領」とか「保育所保育指針」に書いてあることが示されているが』、っていうので、ちょっと、え、否定するの、みたいな感じがあるので。ここは別に書かなくてもいいと思うので、要するに、小学校への連続的なものをとらえて、それもずっと桑名でも、そこを大事にしてやってきたと、今ちょっと幼稚園の形態も変わってきたけど、でも、こういうところを大事にして、連続を大事にしていかなければならないみたいな、そんな話の方がいいのかなと思いました。

【市長】

はい。具体的なことがもつとあるのではないかということと、このつなぎ方の部分、表現ですかね、多分、今、安藤委員がおっしゃったようなことが言いたかったと思うのですが、この表現の部分なのかなと思います。事務局から何かありましたら。

【教育監】

一つは、三つ目のところは、「が」というのはどうしても否定的にみえるので、おっしゃっていただいたみたいに「年長児の卒園をゴールとして考えるのではなく」の部分だけを取り出しても伝わるのかなということと、

【安藤委員】

いいと思うんです。全然

【教育監】

それからもう一つ、ご指摘いただいたのは、確か桑名市の場合は、就学前教育については、私立の占める部分が非常に大きいということと、当然、保育所保育園というものの共稼ぎが増えている中で、非常にジリ貧になってきているので、今後として、公私それから保幼のですね、それが皆一体となって、桑名の就学前をしっかりと取り組んでいるんだという部分で、みえてくる場所の現状を書いて、その協働をもっとしっかりしていかなければいけないところを挙げさせていただきたいかなと。そんなイメージでよろしいですか。

【安藤委員】

はい。

【市長】

はい。では、その形でまとめてもらいましょう。

【松香委員】

いいですか。

【市長】

はい。松香委員。

【松香委員】

8ページの<不登校>のところですが、不登校は、桑名市でもどんどん増えている。どこでも増えている。大事なことは、今は学校に戻すというより、いわゆる学校以外のところでどうやって学ぶかという、いろんな対策をしていますということを、ここに書かれるといいかなと思います。今、子ども達がいろんなふうになっていて、不登校っていうのは増えてますよね。で、その多様性が出てきたって、その受け皿を、桑名市がどういうふう用意してるかというのを書かれるといいかなと思いますけど。

【市長】

下から二つ目の○の部分ですね。どう思いますか、事務方で。

【教育監】

そうですね。こちらの方は現状と課題ということになりますので、そのあたりをここで言う多様化、学校外での多様な学習活動という部分の保障をどうしていくかっていうことになるかなと思います。で、それが後ほどご説明させていただき、現状と課題に対してどうしていくかっていうところが、13ページ以降の基本方針になってまいります。

ちょっと先に行きますけれども、そちらでも「不登校児童の実情に応じたきめ細かな指導・支援を進めます」というような形で、ばくつとした形にはなっているのですが、このあたり、現実に非常に細かい対応になってくると、この下に教育ビジョンというのがございますので、そういうところも中心的に扱うところになるかなということで、一応こういう基本方針にさせていただきましたので、そこでもう少し具体的なものを書いた方がいいということであれば、また5番の13ページ以降のところ、またご指摘をいただくといいかなという気がします。

【松香委員】

フリースクールであるとか、補習を公的機関がやっているとか、親が安心できるようなのがいいかな。

【教育監】

そうですね、そのあたりが13ページの基本方針の4番目の「きめ細やかな指導・支援」というところに当てはまるわけですが、そこを具体的なものを指しているか否かということになりますので、またそのときに。

【市長】

これって、追加で私も聞きますけれど、不登校が増えていて、適応指導教室へ来る子どもも増えているんですか。

【教育監】

この辺りは増減が常ある形です。

【市長】

常にある。増加傾向とか低下傾向とかは分からない？

【教育監】

そうですね。今のところそうです、増減があり、あまり明確に増えているというような

【市長】

っていう感じでもない。

【教育監】

感じでもないので、はい。

【市長】

桑名市でいくと、多くの子ども達にとって、その他対策で、適応教室のようなことをしているけれども、それにも当てはまらない子ども達も増えているということ。

【教育監】

そうですね、出てこれない子どもさんもみえますし、あとは別のスクールへ行っているお子さんも、ちょこちょこみられるようになっていきます。

【市長】

まさに多様化してきている。そこは、このあとの部分に書かれています。

【教育監】

そうですね、はい。

【松香委員】

10ページの〈小規模校対策・安全対策〉のところで、どこに書いたらいいかよく分からないのですが、私、町田市という東京の田舎に住んでいるのですが、すごい台風で避難のことが出て、うちのところは4000世帯、小学校が二つあるんですけど、一つは川に近いということで避難所にならずに、一つの小学校が4000世帯引き受けるという全く現実性のないこともあって、今回は何もなかったんで70人しか避難しなかったということですけど、これ以上になったら学校というのが必ず受け皿になるので、どうやって4000世帯を入れるのかって、今回は検討になって、絶対ありえないので、大変ですよ。今回、ありとあらゆる川が氾濫して、ということが桑名に来たら、本当に避難所どうする。教育委員会に関わることではないかもしれないですけど、どうなさるのかなって思っちゃいますね。

【市長】

今、防災の方でもそういうのは課題になっていて、今、私達もこれは広域避難についての議論なんですけど、本当にどうやって逃げるかってすごく大事で、今、松香委員がおっしゃったように、4000世帯の人達は、当然、今の段階では避難所は学校になっているけれども、おそらく学校に逃げない人もたくさんおられる、つまり親戚の家がここにあるからここに逃げるとか、そういうことを今、桑名市も具体的に、住民の方に直接アンケートを取って、本当にどのくらい避難所があるのってというような、そういうリアルな部分に近づけようというのが、日本全国でスタートしている中で、今回の39校だったと思うので、クローズアップされているのかなと思いますけどね。ただ現実性がないので、いかに現実的なものに変えていくのかっていうのが、今の課題ですね、全国的な。

【松香委員】

すごかったですね。携帯が一日何回もビンビン、ビンビン鳴って、避難しよう避難しようって言うんですけど、実際には避難するところがないわけで、どこに避難するかっていうのがね、本当に大きな問題なんだなって、すごく今回はね。たまたまこちらの方に来なくて良かったですね。大騒ぎでしたね。

【市長】

こちらでも去年の台風21号、24号、今年も9月4日に集中豪雨があったりして、かなり床上浸水なんかも出てますので。60年前の伊勢湾台風を経験するエリアなので、やっぱりそこへの意識が高いというか、そこに対しての注目度が高いのですけれども、だから逃げるといっても現実的じゃないじゃないかみたいな議論はよく出ますので、かといって、そのために学校の施設を15階立てにするとかは、それこそ非現実的なので。そのへんは体育館を4倍ぐらいの大きさにするとか、現実的ではないので。

【松香委員】

どうなのでしょうね。

【市長】

まあ基本的には、その場合は逃げていただいたら次の、我々でいくと2次避難、1次避難して、そこでいっぱいになったら次、また違う場所にとかです、例えば昔でいう疎開みたいな、そういう制度もあって、伊勢湾台風の際も鈴鹿の方に避難された方もいらっしやるっていうのもあるので。

【松香委員】

ビルがあるところには、全部お願いしておくとかね。

【市長】

そうですね、それはもう。

【松香委員】

なにか、学校だけが、ああやって頼られるのは本当に大変だったんですね、で、校長先生はもちろんね、出校していたので、70人で終わって良かったな、でも1500人来たらどうしようっていうことは議論しましたね。

【教育長】

まあ高いビルには色々お願いはしてますよね。で、ご協力いただけるところには、日頃からそういう契約というか、約束をして、避難訓練に使っているところもありますけどね。

【松香委員】

そうですね。あまり学校に頼らない方法ってないのかなってしみじみ思うんですけど、マンションの1階に住んでいる人は、普段から4階の人と仲良くしておくとかね。

【教育長】

その議論の中で、まちづくり拠点施設の方が畳があるので。どうしても学校ですと体育館のフローリングの上になってると、かなりお年寄りの方はきついところもあるというので、そのへんのアンケートを取りながら精査をさせていただいているというような状況ですよ。でも大きな統計を取ったらどうするかについては、日頃から自治会さん中心にしながら考えていくべきかなと思っていますけどね。

【市長】

避難所を支援する立場から考えると、避難所の数は少ない方がいいわけですね。避難所が多様化すると、親戚の人の家に逃げた人をどうやって支援したらいいかって、なかなか無かったりするんですよ。なので、そのあたりはバランスもあるんですけど、このあたりは学校だけでなく、地域の方達との協議をしながら決めていくとこそですけど。災害のことは、なんとなくは書いてあるのかな？

【松香委員】

なんとなく書いてあるんですけど、本当に起こったら大変なんだなって、しみじみ今回分かりました。

【市長】

そうですね。そのあたり、我々も受け止めて、しっかり防災の方で、やらせていただきたいと思います。

【松香委員】

学校に来ない方法、学校に避難しなくてもいい方法ないのかなって、すごく思います。

【市長】

他に何か。じゃあ松岡委員。

【松岡委員】

11ページ、(7)文化・スポーツの振興についてですけど、東京オリンピック・パラリンピックにしてもらって、分かりやすくなったかなと思います。それでですけど、「三重とこわか国体」とありますけども、「大会」も入れるべきかなと。「三重とこわか国体・大会などの好機として」とすると、バランス取れるかなと思います。

それから好機とありますけど、このへんは私の感想ですけど、最近スポーツを観ることが楽しくて、ラグビーもあんなに魅力的で、ノーサイドがあんなに意義ある言葉とは知らなかったし、野球も優勝しましたし、それからゴルフも面白いし、本当に見る楽しみが増えているなと思います。それから、国体大会がありますと、ボランティアで支える機会っていうのも子ども達にも機会があり、いいかなと思います。

【市長】

ありがとうございます。これはとこわか大会入れた方がいいので、これはもう文言としては追加してもらって。

【スポーツ振興・国体推進室長】

ありがとうございます。バランス的なところで、ご意見いただきましてありがとうございます。入れさせていただきます。

【市長】

パラリンピックとかも見てると感動しますよね。今、1年前の特集でたくさん見ますけれども。すごいなあと思いますからね。こういうのもしっかりと、「みる」「ささえる」の部分の大事な分野だと思いますので、文言に加えていただきたいと思います。

【松香委員】

ちょっといいですか。

【市長】

はい、じゃあ

【松香委員】

えっとラグビーは今年すごく良かったらしくて、いろんな所でやったので、ああいう国際的なことがあったら桑名市も積極的に呼びになるといいと思うんですよね。すごい教育効果があるらしくて、静岡県のラグビーをやったところは、田舎でやったらしいんですけど、全校中学校全員が招待されたりとか、席をいっぱい埋めるっていうのはあったでしょうけど、生徒もすごく感激して。で、すごい紳士でみなさん、終わった後もみんな生徒にも優しくしてくれて、すごい国際的な効果もあるし、商店街もみんないっぱい人が来て、いっぱい食べてくれたりして、すごく良かったらしいんですね。だから何か国際大会を何か呼ぶっていうのは、すごい効果があったようで。

【市長】

岐阜県の関市が、海外のラグビーワールドカップの南アフリカ代表のキャンプ地だったんですよね。で、すごいみんなが応援をされていた、とても盛り上がったという話を伺って、今、我々もオリンピック・パラリンピックのボート競技のキャンプ地の誘致をしまして、ボートってちょっとマニアックなんですけど、ここは木曾三川の長良川センターといういい施設があるので、ここに来てもらおうと取り組んでまして、なかなか大会自体を誘致しようとする、施設の問題とかですね、そういう課題が出てくるのですけれども、うまく活用させていただいて、合宿を誘致するかですね、そういうことはできるかなと思って、あれはまだ決まってないんだっけ？

【スポーツ振興・国体推進室長】

はい、まだちょっと。

【市長】

まだ決まってない。どこが見に来てるんだっけ？

【スポーツ振興・国体推進室長】

4月がポーランドで、今デンマークと交渉中でございます。

【市長】

ヨーロッパの合同チームって滅茶苦茶、体がでかいんですよね、大体2メートル以上ですね。ストロークが違いすぎるんで、日本人勝てないですね。全然背の高さが違う。そういうスポーツのうまく機会をとらえて、子ども達の教育に繋がられるようにいきたいなと思います。

他になにか。稲垣委員。

【稲垣委員】

まず教育大綱としての桑名市の現状と課題は、ほぼほぼ網羅されているんじゃないかと思います。事務局のみなさんの苦勞を感じており、本当にありがとうございます。

私の気になったところが、一つは<就学前教育>の部分で、やはり今、文科省も、三重県の教育大綱にもありますけれども、就学前教育が注目を今、している部分なんですよね。それにしてもちょっと抽象的というか、欲張りすぎるといった感じがありますし、やはり就学前教育に、教育分野には関係ないですけども、やはり地域の連携と家庭との繋がりというのは必須アイテムだと思うので、そういうところが課題であるというのをきちんと明記しておく必要があると思います。

後は、前まであったんですけど、文言を精査した関係だと思いますが、やはり就学前教育のキーワードは「非認知能力」だと思うんですよね。保護者を見たら難しいかもしれませんが、やはり「非認知能力」っていうこの言

葉をきちんとインストールしていく上でも、やっぱりこういう「非認知能力」という言葉を、きちんとここに私は書いておいた方がいいんじゃないかなと思います。

あと、こういった「てにおは」や文言はうまい方にお任せするとして、やはり大きな目的は「夢を持ちその夢に向かって努力する子を育てます」というか、夢、どんな子も夢を持てる、夢を持てる努力をできる子はできるんですよ、そういう素質がある子はいますけれども、そうじゃないどんな環境の子も、夢を描ける子が育つ教育大綱になっているかと思つたときに、すごく気になったのが、不登校の部分と、あといじめもそうですけれども、やっぱりこの教育研修の充実の部分、結局、いろんな要素があるので、夢を持ってない子達っていうのは、もちろん教育の範囲内でやれることっていうのは限られると思うんですが、私達ができるのは、やっぱり学校の先生を通してって部分になると、この教員研修の充実っていうのが、やはり大元になるのかなと思います。ただ、じゃあこれを増やせばいいかっていうとそういう問題ではなく、今実際、私の記憶が正しければ2.8回でしたよね、桑名市でやっている研修の回数が。

【教育長】

一人につきですね。

【稲垣委員】

そうですね。色々あると思うんですけど、それ以外にもみなさんいっぱいやっていて、研究会とか勉強会とか色々やっているんですが、「チーム学校」という言葉がありましてね、本当に「チーム学校」のための研修というか、ここでは何かと考えたときに、企業側の意見で言うと、今はやはり、実はもう研修の時代ではないんですよ。集合研修とかっていうのは、もちろんやってはいますけれども、今、マネジメントも大きく分かれていて、知識を学ぶってことだと、後はきちんと人を育てていけるかっていうパターンで、こっちの部分が、今ヤフーの1ON1とかかって聞いたことありますか、一対一で育てていこうというのがすごく流行っているんですよ。で実際に何が起るかかっていうと、まず校長先生が管理職の人と、ヤフーの1ON1が何かかっていうと、週に一回30分、ヤフーは部下と面談するっていうのがあるんですよ。賛否両論色々あるんですけど、ただ何がしたいかっていうと、今、グーグルの子も言っていましたけど、心理的安全性、どれだけ組織に心理的安全性が使えるのか、そうすると多分教育業界で行くと、不登校とか学校へ来たいって思うのも心理的安全性、あと学校の先生が、変ないじめもなく働きやすいっていうのが、心理的安全性が教員の中にあるかって思うときに、研修の方法みたいなものも少しずつ見直していったりとか。今、多分OJTで、問題が勃発したときに対応していると思うんですよ。そうではなくて、もっと未然に、ちょっとあの子やばいかもなんていうのは、一人の先生がほとんど抱えている状態だと思うんですよ。そういうのをちょっとずつ、1ON1を入れるかどうかは別として、何かその仕組みを、こういう仕組みがあるよって先生達に分かるだけでも、ちょっと未然に防げるようになってきたりとか。ちょっと長くなっちゃうのでこのくらいにしておきます。

【市長】

一つ目の非認知能力みたいな部分は確かに、消えたのかな？消えた？

【教育監】

そうですね、先ほど申し上げたみたいに、分かりづらいのってということで、言っていたのですが、もう少し具体的にこのところで、そのあたりに触れて、もう少し内容について、分かりやすく非認知的能力的な部分、それから家庭・地域もしっかりとやっていかないといけないという繋がり部分を盛り込んだ形で、これの特に2番目のところについて、少し検討させていただいて、中身を、もう少し載せたいなと思います。

【市長】

もう一つ是非お願いします。それから

【松香委員】

いいですか？

【市長】

はい

【松香委員】

研修のことなんですけど、すごく大事だと思うんですけど、私、2年間桑名英語コンテストを通して、桑名の方と

具体的に関わらせていただいて、桑名の方っていうのは、すごく忍耐強くて、すごい我慢強い、とにかく我慢強くて、誰かが何か意見を言うと、どんなに自分が何かばっても、じっと我慢してそれをやるんですね。何か言われたときに、自分にかかることが分かっているんだしたら、「でもこうじゃないですか」とか言い返せない不思議な人達で、オープンにもっと、教員もそうだと思うんですね。何かあったら、それが一対一だったら言えるのかなと思ったりして言ってたんですけど、何かすごく我慢強い土地柄でびっくりするんです。でもこうじゃないんですかってどうして言わなかったのっていうことばかりいつも言ってるんですけど、何か言われると、自分が我慢すれば済むなら我慢しましょうみたいなのが蔓延してて、そうじゃないですか？

【市長】

なんだろうなあ。

【松香委員】

なんなんでしょう。土地柄？

【市長】

学校の文化ですかね。

【松香委員】

従順と言えば従順、何かもっとオープンに、こういう問題があったらこうなんじゃないですかって話せるような雰囲気っていうのが、段々できていくような場があるのいいかなと思うのと、海外研修っていうのも、今JICAの仕事でなんだかんだやってると、埼玉県とかすごく熱心に外に出すっていうのをやっていて、たった一人でも出すとすごい影響があると書いてあるので、何かそういうSDGsとかそういうのは、海外に行って研修とかをやっているらしいんですね、JICAも今、教員の。そういうのにのせるとリーダー的な人を行かせるとか、すごい効果があって、一生懸命やっています。

【市長】

あれ三重県で行かせて、行ってもらってるんじゃないかって？

【教育監】

はい、JICAで海外派遣で、休職の形で出てもらっている教職員は、常に桑名市にもいます。あと研修的なもので、毎年ではないんですが、海外で学んでいる教員もいるにはいますので。それで子ども達に行ったときの周りの人と一緒に授業をしたりとか、そんなことをやっている教員もいます。

【松香委員】

そういうのもいいんですけど、そういう人が帰ってきて何か言うと、我慢して聞くて。それでは私、気に入らないので。何を言われても、この人はどこかへ行ってきた偉い人だからって、分からないですけどね、何しろ我慢してひたすら聞く。でもこうじゃないですかと質問もしないし、こういうのはどうですかとか何か、いつも発展性のない話で終わるっていうのが、私が桑名に来て一番感じる場所なんですけど。

【市長】

なんですかね、どういうふうかな。

【松香委員】

分からない。

【教育監】

確かに今、おっしゃっていただいた点というのは、生徒指導を中心に課題になっているところがあります。一つは、前回の校長会議でも私も少し言わせていただいたのは、本当のヒーローは大変な問題が起きて、それをかっこよく迅速に解決するのがヒーローではないですと、元々起こらないようにするのが本当のヒーローですよという話をさせていただいたところで、普段からやっぱり子どもに関する情報っていうのを、何も無いときほど、余裕があるときほど、しっかり情報を持って、ちょっとこれ、最近この子様がおかしいというときに、そこから手当をうったり、保護者さんと話をしておけば、これまで急になんやみたいなのは無くなってくるので、そのへんもやっぱり大事という、未然防止のそういう意識っていうのが、やっていくのが大切なんですけど、日々が多忙なので、追いまくられて積み重なっていくということで、このへんは、ゆとりを持たせる中で、そういう思考を持ってもらって、循環をさせていかないと、ことが起きて追いまくられて、さらに他の情報も掴めずに、またなんかも来てっていう状況で行っ

やうと、学校はどんどんどんどん大変になっていくので、その逆の循環を作っていけないといけないと、確かにおっしゃられるとおりでと思います。

それからあと、言い返せないという部分も、この辺も交渉術のようなところがあるかもしれませんが、色々困って管理職の方々が相談にみえたりしたときに、対立するばかりではなくて、どんどんどんどん目標を上げていくと最後のところは共通のところまで戻れますよねと。いじめでも小さな部分について問題を挙げていけば対立になるんですけども、何よりもこの子がいじめられないためにはどうしたらいいかとか、今起こっているいじめを直ちに起きない状態にまずしないといけないねというところは対立するものではないので、そこから出発していかないと。

枝葉のところから入るから、ごちゃごちゃ揉めたり、どうしてくれるんやっていう話、結局枝葉のところは時間ばかり取られて、本筋が進まないというところがあるので、それについてもしっかり考えていかないと。言い返し方も細かな部分で「でもね」なんて言ってしまうとケンカになってしまうだけなので、共通して共にやれるところまで守っておいて、そこから徐々に、どんなところがボタンの掛け違いが起きたのかと、お互いにどうしていけばいいのかというような交渉の仕方をしていかないと、物事が進まないというところを考えていってもらわないといけない。

大変申し訳ないけれど、今のところはやっぱりケースバイケースで、相談を受けたところについて、そんな話にきているので、それをいかに研修なり、そういったところでどうしていくのかっていうのが、非常に難しいところなんですけれども。一つはOJTの部分や具体的な事案を元に考えていかないと、なかなかピンと来ないというところが実際あって、大まかな理屈としては話はしていますが、なかなかそのへんをみんなによってたかって、一気にやるためにはどんな風なことをいくのかということ、研修として進めるというところが、それぞれ学校の、今のところは取組に頼っているところが実際のところありますので、いかに管理職のみなさんにそのあたりの考え方とかを入れていってもらうのかということ、まず我々できることかなと考えております。

【松香委員】

指導課を学校支援課に直したっていう意識があると思うんですね、支援するものだっていうことで。でも私が付き合っている方達には、教育委員会って絶対なんですね。教育委員会がこう言ったって、江戸時代じゃないんだからっていつも言ってるんですけど。ハハハみたいに言うわけですよ。じゃあそのとき、何か言われたときにでもこうなんですって言ったの？って言うと言わないんですね。まず教育委員会は絶対的なものでっていう、そういう、私の付き合っている人がたまたまね、そういう人が多いのかもしれないですけど、そういうことはもう今の世の中はないかなと思っているので。みんながオープンにできるような

【市長】

たまたま委員が付き合っているのがそういう人なのか。そういう空気は感じないですけどね。ま、いるのかもしれないですけども。

【教育長】

ちょっとよろしいですか。今おっしゃっていることについて、私共が指導課から学校支援課というように名前を変えたっていうのも、別に意識を一般の先生方に持ってもらうって、もう少しちょっと対話をしながら前に進めていきたいというので、そうやってさせてもらったんですけども。

それと一番今、ここの課題の中で少し触れているんですけども、桑名市が当面困っているのは、ここから5年が相当えらいと思うんです。今まで校長先生としてやってきていただいた方が、3分の2もお辞めになると。今あと3分の1の人達が、次の世代を育てようと思ってやってくれているんですけども。

だから今の稲垣委員がおっしゃっていただいたような形で、一般的にこう知識をしのぐということではなくて、次の世代を確実に作っていけないと、5年後の桑名はどうなるのかということ、私は非常に心配しているんですけども。

そんな中で心理的安全性っておっしゃったんですが、管理職の人達自身が自信がなくて、どういうふうに対応したらいいかということがあるんですけども。これはやっぱり経験を積まないといけないと思いますので。

やっぱり今教育監も言っていましたけれども、一つの事例を一緒にチームになって乗り越えていくというんですかね、そういうのを繰り返さないと、どうしても本当の力になってこないなと思ってますので。そういう意味で、教育委員会も一緒になってですね、学校それぞれを、今はちょっと支援している状態なんですけど、これを繰り返していくと、ある程度ものになっていくのではないかなと思いますので、ここから5年が踏ん張り時だと思って日々やっ

る状況なんですけどね。

だから、今おっしゃっていただいたようなところを事例を元に、一緒にこう、一人で考えるよりも三人寄れば文殊の知恵というように、かなり新しいアイデアが出てくる可能性はありますので。それと今、松香委員がおっしゃっていただいたように、やっぱり議論をして、前に進めていかないといけないという風潮を、桑名市の教育委員会の中では作っていききたいなとそんなように思っておりますので。言い訳で申し訳ないですけども、非常につらい岐路のところであるんだと、ただこれをチャンスにしていきたいというように思っているんですけどね。

【松香委員】

何か言ったら必ず質問ありませんかとか、意見はありませんかとかと言うのをみんなで癖にするとか、そういうことがないから。

私、いつも仕事をしていてもウォーと言われるのに慣れてるから、みんなしーっと聞いていただくと、すごくこっちが不安になっちゃうようなところで普段働いているので、なんか対話のない、みなさんすみませんけど、そういうことは常に外部でも質問ありませんかとか、意見ありませんかとか常に聞くような、何か双方向なことって、もうちょっとほしいかな。

【安藤委員】

そういうような普通の職員会議でもなかなか意見が出ないことが多いですね、言われる方がもう決まってるのか、若手の方はわりと黙っているみたい。でも誰かが、若手の子が頑張り出すと、じゃあ私も私もみたいなので、強制的にあなた何か言いなさいよと言っていくことを繰り返していくと、やっぱりちょっと変わっていくっていうのがあって、子ども達の資質にも関わると思うんですけど、自分で意見を持って、それを発信していく力は確かに弱いと私は思うんです。それはある程度の、そういう状況に置くとか、訓練とかっていうので変わっていく部分もあると思うので、意識していく必要があると思うんですね。

【松香委員】

うちの会社は小さな会社ですけど、とにかく意見を言わなかったら会議に出席していなかったのと同じということで、必ず一回は何か手を挙げて言ってくださいというのをすごくやっている。みんな仲いいですよ。その方がみんなやってる感が出るので。安藤先生が校長先生で何か言うと、校長先生がそう言ってるんだからというのがある。

【安藤委員】

そんなことはないですけどね。

【松香委員】

いや、ありそうですね。

【市長】

稲垣委員の話に戻ってというか、そここのところでなんですけれども、僕もこの9ページのところで読んで思ったのが、教員の世代交代が進んで、教科指導やなんか指導方法の継承が急務になっているんだろうけれども、若い先生の方が新しい教え方に実は近くて、それにうまく慣れてて、逆に年配の方の方が、今までの上から教えるみたいなやり方から変われないわけでしょ、そういう意味では。そこが稲垣委員がおっしゃった、時代が変わってきている中での、研修のあり方も変わるよねっていうことでもあるのかなという。

【稲垣委員】

そうですね、すみません、私の伝え方が悪かったみたいで、話が全然違う方へ行って申し訳ないですけども、要は、例えばさっきの発言が出ないとかっていうのも、なんで発言が出ないのか、私は別に桑名の方が悪いとかっていうのではなく、じゃあ組織で出ないのはやっぱりリーダーのせいなんです。やっぱりリーダーがそういう場を作っていないっていうのが一番なんです。じゃあリーダーはどうやったらそれが作れるようになるのかっていうのが、それがまさに心理的安全性なんですけれども。

さっき教育長が言ったように、実はリーダーも不安なわけですよ、なんで不安なのかっていうと、実は校長先生も含めて、それぞれの先生に構ってもらえる時間がない、色々あるじゃないですか。

そういう意味で、今、きちんと一対一で、その現場の声とかをきちんと拾ったりする。事例を出すとかっていうのも、そういうのも全然構わないんですが、それは遅いんですよね。今Googleだって、どの世界も、教育業界だけ

じゃないですよ、どの業界も、全てが手探りのはずなんですよ。佐藤さんの古い会社でも、ずっと歴史がある会社でも、常に新しい状態にさらされているはずなんですよ。なので、事例があつてからどうなるという、そういう時代ではないので、今、現場で起こっていることをきちんとピックアップして、その中で校長先生なり管理職の知識は十分使えますし、そういうのがきちんと反映されるような組織を作っていく限り、一年前の事例でみんなで研究してどうのこうのっていうのもちょっと違うと思いますし、まずはなにか意味なく議論しようねって言ったら全然議論は出ないでしょうし。

最終的になんでそうかという、教師像が変わっていくということなんですよ。それって別に管理職だけが一対一対応ができるのではなく、やっぱり今の時代、もう上手に指導するなんて、映像に多分取って代われる時代が全然あるので。例えば上手に先生が映像にしたものを、一対一でできない生徒ときちんと関われる、その先生の質が求められると思うんですよ。今から管理職がそうやって若い先生に関わることによって始めて、その先生達もそういうふう子ども達にできるようになると思うんですよ。最終的には、子ども達にその先生ができるって考えた、一対一に関わる力みたいなものが必要なんじゃないかなと。

すみません、私の言い方が悪くて、どんどん話が展開してしちゃって恐縮なんです。

【市長】

研修の手前の話ということですね。

【稲垣委員】

研修は別にいいですよ、研修で指導するのは。

さっき基本方針で研修も色々やりましょうという話でしたが、もうちょっと、先を見据えた力を考えての研修なのか、リーダーや管理職の先生が少なくなってくるということなので。

【市長】

あまり具体的には言えないけど、教育が変わっていく中で、理想の教師像をみんなで求めていく議論が必要とされているみたいなことなんですかね？

【稲垣委員】

そうですね、そのためにどういう管理職になっていないといけないのかというところでの管理職研修だったり、現場の先生の必要な知識研修だったりというのはあると思うんですけど。ちなみにヤフーの1ON1というのは教えるのではないんですよ。OJTとは別に、やらなきゃいけないのは、内省支援と感情支援と言われているんですね。常に本人が振り返りをさせていくということとか、感情的に今どうなのかというのをきちんと振り返るというその支援をしていくということなんですよ。

【市長】

みんながこの組織の中でがんばってやれるぞという雰囲気、まず作るということですかね。

【稲垣委員】

そうですね。それがあつて校長先生も楽になると思いますし、さっき言ったまさに議論が出やすい環境にもなるでしょうし。すみません、だから何っていうわけでもないんですけど、ちょっとうまく言えませんが。

【教育長】

今、校長先生方をお願いしているのは、家庭訪問に一人で行かずに若手の人を連れて行って、一緒にそこで議論して、どのようにするのか実際に見せてやっていくようにお願いしているのですけれども。

【稲垣委員】

つまりOJTですね。OJTでずっとリーダーがつくと、それでなくても忙しいのにどんどん過多になると思うんですよ。今何が起こるかっていうと、もちろん一緒についてくるのも大事なんですけど、じゃあ自分一人で行ってみてやらせた後に、きちんと内省させる、内省は振り返るということなんですよ。そこに丁寧に、こまめに付き合っていく、それこそなら問題がないときも。本当に育てていく視点で関わることが大切なんですよ。もちろん緊急対応はOJTで全然OKなんですけど。

【市長】

師弟制度という感じですね。

【教育長】

なるほどね。

【教育長】

また戻ってきているみたいなことですかね。

【稲垣委員】

すみません。これ長くなるので、このへんでやめておきます。

【市長】

指導力向上の部分で、今書いている以上の部分が求められていることになるけど、事務方的にはまとめられませんか。

【教育監】

新しい価値観のもとで作られた気運で、日本の一番苦手な部分になります。これまでの製造業に代表されるいろんな産業については日本も強いと思うんですけど、それ以上に力を持った企業がどんどん台頭してきているので、相対的に日本の地位が落ちてきていると。

その部分が弱いというのが、また学校は典型的に旧型の企業の部分があって、どうしても保守だし、自分の考えで変えていっていいのかという不安も持っている。管理職も一般の教員も。我々の作戦としては、人の考え方や議論は環境を変えることで変わっていくだろうなど。どんな風に環境を変えるかっていうと、我々としては、教育ビジョンを始めとして、今後の変化は何かということ、変化に対してこういったことをしていかないと、これからの学校は価値を認められませんよと。教育委員会もそう思っているので、一緒にやっ払いこうと。怖がらなくてもいいよと。困ったらこちらが説明なり、なんとかするからどんどんやってくれというところを全面に押し出して、まずはしていこうかなというところが、今のところの作戦として考えています。今、松香委員がおっしゃっていただいたみたいに、桑名の先生は、はっきりやると決めたことはブツブツ言いながらも結構真面目にやってくれる

【松香委員】

やるんですよ。

【教育監】

真面目にブツブツ言いながらもやってくれる部分が、次の力がつく方に繋がるようなことをやらしてもらえばいいので。最初は受け身になるかもしれませんが、主体的にやれということを受け身でやらせよう。ちょっと矛盾しているようですが、そういったことを今後やっていながら、徐々に人が変わっていくきっかけを作ろうかなと考えています。

【松香委員】

最初に議論してやるのじゃなくて、そのときは黙っていて、苦情を言ってもいい時間になると、うおーっと出てくる。そんなに分かっているなら、どうして最初に言わないのっていうのが、私には理解ができない。

【教育監】

それが特徴なので、大体、無抵抗不服従なところがある。それを見た上で、色々作戦を立てる必要がある。

【市長】

じゃあ松岡委員。

【松岡委員】

桑名市はコミュニティスクール化を進めていますよね。コミュニティスクールでは、学校運営協議会のメンバーと学校の先生とPTAが混じって、グループに別れて、そのときの印象は全然違って、学校の先生はよくしゃべる印象でした。校長先生の混じった中で、学校の課題と将来こうしたいということ、校長先生のいる前で堂々といろんなことをしゃべっていたので。職員会議では話さないけれど、ちょっと場を作れば、しゃべるのが仕事の先生なので、いっぱい出てくると思います。場づくりだけではないでしょうか。

【市長】

場なんでしょうね。それはリーダーの、ある意味仕事というか。

【松香委員】

そうなんです。いい場を設ければしゃべるっていうのはあるんだと思いますね。桑名の人がしゃべらないとも言わないけれど、ひたすら耐えて、すぐ戊辰戦争の話とかになるんですよ。だからよそ者としては、おおとか思っ

ちやって、勉強になってますけれど、もう少しいい流れになってほしい。

この間、商工会議所の会長さんにお話したら、あと5年間で桑名の経済はものすごく構造的に変化して、小さな企業は今、パパママ店とか、小さな企業もすごく持たなくなってくると言って、英語コンテストに支援するのもあと5年ですと言われたんですね。その後はつぶれるかもしれないので支援なんて約束できませんと言われたから、おおすごいなと思って。さっき5年とおっしゃったけど、いろんなことが変わっていくときに、あ、でも商工会議所の会頭の方はとても大きな方で色々言ってくれましたけれど、みんな議論できないといけなのかなとすごく思いますね。

【市長】

そうですね。変わっていく時代を体感できるかどうかは結構ありますよね。マイナスにとらえるかプラスにとらえるかもありますけども。

【教育長】

よろしいですか。

【市長】

はい。

【教育長】

先ほど稲垣委員のおっしゃった内省させるというのは、やはり管理職がその機会を作っていくことになりますよね。

【稲垣委員】

そうですね、はい。

【教育長】

そうだと、管理職に部下との1ON1を大事にするような取り組みを、我々がしなければいけないとおっしゃってましたね。

【稲垣委員】

あの、ヤフーさんとカークルさんとか、そういう企業さんは、そうやって定期的に、長い時間でなくてもいいから定期的にやっていく。ヤフーは一週間に一回30分なんですけど、実際にはそんなに取れないので、大抵の企業さんは2週間に一回とか、多くても1か月に1回とか、1時間とか、そういった面談をしているというのがありますね。

【教育長】

今、人事考課の中で、期首面談と中間面談、期末面談というようにやっているけども、それとはまた違った意味でということですか？

【稲垣委員】

それで大体面談は何回やっています？何か月に何回ぐらいやっていますか？

【教育長】

学期に一回ですね。

【稲垣委員】

これ実は、日本ってすごく少ないんですね。リーダーは、最低でも一か月に一回くらいはやった方がいいと言われてます。

【教育長】

ちょっと参考にさせていただいて、管理職級の育成をしていかないといけないと思っていますので。

【松香委員】

学校はね、企業もそうなんですけど多忙感があるからね、大変ですよ。うちの会社もやっていますよ、社長との話し合いってのは。定期的に全員とね、一人一人絶対に話す。ずっとやっていますけど。

【教育長】

働き方のあれで、定時退校というのを打ち上げているけど、話す時間をどう設けていくかという所が非常に大変。でも話すことによって相当こう、それぞれのね。

【稲垣委員】

そうなんです。例えば企業とかだと、離職率が減るっていうのが統計で出ていたりとか、情報が何気に入ってくるので、未然に対応ができるようになるとか、そういう成果は出ています。

【佐藤委員】

いいですか？ちょっと今、言葉が出ましたけど、確かに現状と課題というのは網羅されていますけど、この計画の中に入れるべきなのかどうか分からないですけど、先生方の働き方改革というかですね、働き方改革が決して楽にするとか就業時間を短くするのではなくて、もっと先生方の特徴に応じた指導方法があるでしょうし、よく現場の先生方を見ていても、非常にハードで余裕がなくて、それが子どもの方にも分かってしまうような状況になっていて、それが離職にも繋がったりとかっていう状況がある中で、基本手には子どもに対する手段が記載してありますけれど、先生方に注目した、こうやったら先生方がもっとできるから、子ども達にも影響を与えられるよというような形の内容があってもいいのかなというのは思ってますね。

【市長】

働き方改革の部分は入っている？

【佐藤委員】

それが一つの研修に含まれると思うんですね。

【市長】

<学校の組織力>に入ってますね。

【教育監】

9ページの<学校の組織力>の3つ目のところには、「個々の教職員の働き方改革・改善につなげ」ということは文言としては上げてありますけれども、これは具体的に、どこまで大綱の段階で記載していくのかというと、あまり好ましいとは、ビジョンになりますので。ただ、今おっしゃっていただいたことを具体化していかないと意味がないので、子どもについてはビジョンの方でしっかりと取り組んでいきたいと思えます。

【佐藤委員】

コミュニティスクールも非常にいい内容ですが、窓口になる教頭先生や校長先生の負担が非常に大きくて、逆にそれが障害になってしまうかもしれないので、役割を精査していけば、うまく分業されていくと思えます。

【市長】

松岡委員は、先ほどお話されたといいましたけど

【松岡委員】

夕方でした。負担を避けるためにぶっつけ本番でやろうと。準備しない。そういうやり方でやって、かえって良かったかなと。

【松香委員】

いいですね。準備したらまたね、桑名の方は真面目だから、きっと原稿をね。本当に真面目な市民だと思う。

【安藤委員】

いいですか。全然違う話ですけど、以前の会でも言わせてもらったかなって、自分でも忘れてしまったのですが、表題に違和感がある。特に7ページの「豊かな心の育成」で、<道徳教育><人権教育><いじめ>ってあるのが、どうもなんだか変だなという感じがあるので。いじめって言葉が一人歩きするものもなんだかあれだし、例えば<いじめへの対応>とか<いじめ根絶のための教育>であるとか、ということだと思うので、次の<不登校>もそうなんだけど、ちょっと違和感があるので、考えていただけるといいかなと思います。

で、違う話でいいでしょうか。5ページ(1)確かな学力の定着と向上<授業改善>のところですが、3つ目の新しく赤字で書き足してもらったところですが、「ペア・グループ学習等を取り入れた対話形式の学びを進めようとしているが、」っていうことで、それはそうなんだけど、これこそ形から入ろうとしているように誤解を受けるので、要するに、子どもが主体的に考えたりとか、仲間と話したりとか、一緒にやっていくことによって自分で解決していくとか、答えを出していくとかっていうことをやっていきたいということだと思うんですけど、そんな書き方じゃない方がいいのかなと思うんです。

その上の「特に」からの文章も、非常に長くて分かりにくいので、どこまで言葉がかかっているのかというのもあるので、以前出していたいただいたもの、5月に出していたいただいたもの、その前もそうですけど、せっかく考えてもらっ

て申し訳ないですけど、その方がまだいいかなみたいな。前のものの3つ目の○と、新しいもの2つ目の○が同じこと「～力」「～力」っていうのが大事で、そういうものを身に着けられるように、授業改善をしていく必要があるってことが書いてあるんですけど、前のところには、学びに向かう力とか、思考力とか、判断力を子ども達が主体的に仲間との対話や協働を通じて身に付けられるよう、授業改善をしていく必要があるっていうように書かれているので、そこが大事なんじゃないかなと思いました。

で、ちょっと話が変わるのですが、以前のがないので、みなさんお分かりにならないかも分からないですけど、9年間を見越してという話が3つ目○に書いてあるのですが、新しいところでは、先ほどのペア・グループ学習の話に切り変わっているんですけど、9年間を見越して小中の指導の系統性や連続性を大切にされた教育を進める必要があるということは、入れなくてもいいのかなと思いました。どうしてなくなってしまったのかと思いましたので、＜授業改善＞のところについては、もう一度ご再考していただくと有り難いなと思います。

【市長】

事務局どうですか。

【教育監】

ここで考えていたことは、現状と課題になるので、課題に焦点を当てて書かせていただいたところがあります。この後に提案させていただく部分で、**基本方針1**のところ、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善」の前に「小・中学校の教職員が気持ちを一つにして」ということで、この課題に対して、対応としてどうしていくかを考えたので、その方がこちらでは薄くなっているかなという。どちらかという、方針まで含んでしまうかなというところになりましたので、あえてそのような書き方をさせていただいています。

【市長】

ここは委員の意見を、もう一度考えていただいて、ということになるのかな。

【安藤委員】

3つ目○の「ペア・グループ学習等を取り入れた対話形式の学びを進めようとしているが」というところが、ちょっと気になるので、もう少し広い意味での捉え方になるように変えていただけると、ペアグループ学習だけが大事でそれだけやっていけばいいと誤解されるといけないので。

【松香委員】

町田市で東大の教育学部の大学院の藤村先生という先生を呼んで、アクティブラーニングの実践をやったんですけど、3点あって、まず自分で考えることが一番で、その次にペアとか人の意見を聞いて、そしてまた自分に戻る、この3つが大事。

自分でああそうだったのかって分かるという、確かに安藤先生がおっしゃるとおり、ここだけやってればいいわけじゃないので、もちろん書いた方もそのことは分かっていると思いますが、まず自分で自主的に考える、今日は何やるんだって考えてから人と話さないと、そしてまた自分に戻るっていう、この3テンポっていうことを、すごくおっしゃられています。

【教育監】

安藤委員がおっしゃられたような学びをしていってもらいたいです。ただ、残念ながら、指導主事が日々見させてもらおうと、彼らが実施計画を受けてくれているのですが、ここに書いてあるように、ペアグループ学習をしていればそういう学びになっているというようなことで、じゃあ中身的にはどうかというと、相変わらずそれまでと同じ子どもに充分に考えさせないような、単にグループで話し合っているだけというような状態で終わっているものが、まだまだ多いので、ここでは敢えて課題として、こういう形を取り入れて、満足して、結果的に手段が目的化してしまっているようなのが課題ですよという意味で書かせていただいていますので、狙っていく学びというのは、おっしゃっていただいたとおりで、それはこちらの方針として、それではダメなんですよ、だからこういう方針としてやっていってくださいねということで、取りまとめさせていただいております。

ここで書いてあるような学びでは全然ダメなんです。それが、残念ながらまだまだ形をやっていると、なんとなく子どもが主体的に取り組んでいるようにみえるんです。でも実際に、個々の子どもが最終的に賢くならなければ意味がない、そういう学びになっているかをしっかり見ていくと、まだまだですよという意味で、この3点目は指摘させていただいています。

【松香委員】

他者ともアクティブに関わった後の単体でいい。

【教育監】

自分が考えて、それを他の人の考えやものの見方に触れて、自分とは違う見方があるよねとか、もっとここ深く考えて、こういうことだったんだねということで、自分の考えが広がったり深まったりしていくというのが、そんなような学びです。それがなかなかそうになっていない、まだまだ途上のところも多いので、そのあたり気を付けてやっていかなければいけないという意味で、課題として取上げてイメージをさせていただいたと。

【松香委員】

書いている方は分かっているだろうとは思っておりますが。

【市長】

それでは時間もありますので、この「4」の分については、意見交換はここまでさせていただいて、このまま「5」にいかせていただいてよろしいですか。

では次に、この基本方針の方に入ろうと思います。この基本方針についての説明を事務局からお願いします。

【教育監】

それでは学校支援課の高木よりご説明させていただきます。「基本理念の実現に向けて」というところですが、こちらに「子ども達が夢を持つことができる環境を創っていく取組姿勢として」ということで、あくまで主体は子どもであるということで、子どもが主体的に夢を持っていくもので、我々が持たすものじゃないよというところで、「子どもが夢を持っていくような環境づくり」というのが基本的な考えでなければいけないということで、この一文を入れさせていただきました。

それから次、《視点1》でございます。《視点1》のところは、先ほども色々ご指摘いただいた部分で、1点目のところ、「主体的・対話的で深い学びの実現」の前に、「小・中学校の教職員が気持ちを一つにして」ということで、連続性を持ってですね、こういった学びを作り出していかないといけないというところを、取上げて明記させていただいたということです。

それから2点目ですけれども、外国語についても、これは小・中学校9年間を通したということで、これは「桑名市英語プラン」も作っておりますので、それも頭に入れた上で、こういった書き方をさせていただきました。

それから4点目、5点目のところですが、ここでは特に就学前教育について、あまりイメージされていなかったということもありますので、これまで桑名が大切にしてきた生活や遊びを通しての他者との関わり、それから主体的な活動と体験の充実といった、これまで桑名が大切にしてきたものをしっかり全面に出して、就学前教育の推進を述べさせていただいております。

それから5点目につきましては、ICTというところで、情報活用能力をしっかりと身に付けさせてですね、情報技術をしっかりと自分の学びに使えると、悪用しないということで、しっかりと自分のために使っていけるようなICT教育を推進するというので、その分を追加させていただきました。

その次、**基本方針2**として、「豊かな心の育成」ですが、こちらの方では「道徳」の部分ですね、特に特別の教科「道徳」は要にありますよということと、それから家庭・地域との連携・協力をしていきながら道徳教育を進めていきますよというところを書かせていただきました。

それから「いじめ・不登校」につきましては、これまで一文で書いてありましたが、それぞれ分けた形で書いております。

それから、14ページ**基本方針4**では、「教員の指導力向上」という書き方をさせていただきました。その中で2点ということで、1点目としては、「指導力向上を図るための効率的かつ効果的な校内外の教員研修を充実させる」ということで、ここで働き方改革と言っていたいたのですが、やはりいくら指導力向上のためとはいえ、長時間に渡ってこれまでより勤務時間が長くなるとは意味がないので、そういった意味での的をついた研修をしていくという意味で書かせていただいております。

それから2点目につきましては、「チーム学校」ということで、教職員のみならず専門家や関係機関、地域みんなで力を合わせて子どもを育てていくという組織力を向上させていくということで、その取り組みを進めるということで、それを追加させていただいております。

それから基本方針5です。「教育環境の整備」では、一つはここで、教育環境の整備のところ、「時代の変化やニーズに対応した」ということで、どんどん時代は変わっていく中で、それに応じた子ども達が力をつけていけるような、時代の変化、ニーズに対応するという文を入れさせていただきました。

それから2点目は、特に防災に関わる教育という部分が切り口が弱かったので、その文を入れさせていただいております。それからICTも基本方針に書いてあったのですが、これは前段でも触れておりますので、消させていただきました。

それから《視点3》郷土に誇りをというところで、基本方針6のところ、「地域とともにある学校づくり」というところですが、こちらの方では特に目標やビジョンを学校や地域住民とが共有するというところで、このあたり明確にしっかりとみんなで共有していないといけないというところで、共にやっていくという部分を入れさせていただきました。

2点目としては、身近な人々とのふれあいですが、いろんなこと、出来事のかかわりを通じて子ども達に地域への愛着や誇りを育むということで、より具体的などころで子ども達が意識できるようにする文を入れさせていただいております。

【スポーツ振興・国体推進室長】

基本方針7ですけれども、文化スポーツの振興についての部分の2点目でございます。桑名市スポーツ事業が今、同時に見直しを行っている総合計画であったり、スポーツ推進計画、そして教育大綱他の計画に基づいて推進しておりまして、それぞれがきちんと整合している必要があるのではないかと考えておりまして、そういったことで見直しをさせていただいたのですが、桑名市スポーツ推進計画に詳細な取組について記載がございます。

今回の基本方針の内容につきましては、このスポーツ推進計画に基づいた事業推進を図ると共に、なるべく、同計画で使用している表現を使わせていただいた方がいいのかなということで、考えさせていただきました。そうしたことから、推進計画の策定の趣旨と意義にあります表現を使わせていただいて、「桑名市スポーツ推進計画に基づき市民がスポーツに関心を持ち心身の健康を保つとともに、地域のスポーツ活動を推進します」という表現にさせていただきました。よろしくお願いいたします。

【生涯学習・スポーツ課長】

基本方針8生涯学習の推進でございます。前回、生涯学習による地域のまちづくりの視点というところを盛り込んでどうかというご意見をいただきました。そのことを受けまして、二つ目、付け加えさせていただいたところ。「学びで得た知識などを地域に還元する、生涯学習によるまちづくりを推進します」という文を付け加えさせていただきました。

生涯学習では学ぶ、生涯を通じて主体的に学ぶといった部分と、学びの成果を生かす地域づくりまちづくりを伝えるといった部分、この二つの視点もございますので、この二つのところで分けさせていただいたところでございます。以上です。

【市長】

はい、ありがとうございます。ここまで、基本方針についての説明を事務局からもりました。この内容について、ご意見のある方はお願いします。

【安藤委員】

前の方の現状と課題と連動する形で、新しく付け加えてもらったところ等もあって、大変だと思いました。

で、基本方針5の「教育環境の整備」のところなんですけど、一回目のこの会議の時にも、子ども達が安心して、安定してまず学校へ来れるか、安心して生活できる家庭のまず基盤を整えてほしい、教育相談体制とかを充実させてほしいみたいな話をさせてもらったと思うのですが、2つ目の〇のところ、防災教育というのはとても大事なんですけど、教育相談体制と防災教育が、なぜくっついたかなと思うので、2つ目の文章は「教育相談体制の充実を図ります」で切ってほしいかなと思いました。

基本方針5についての前段回が、10ページに書いてあるわけですけど、9から10ですね、「教育環境の整備」で最初に、＜教育相談体制＞という小見出しが来て、次に＜小規模校対策・安全対策＞というように来ているので、基本方針5の上に、例えば、「一人一人がいきいき学ぶことのできる教育相談体制の充実をはかります」というようにして、2つ目に「時代の変化やニーズに対応し、防災教育というところも絡めて安心して学べる教育環境の

整備を進めます」とか、もしくは防災教育でもう一つ項を起こしてもらってもいいのですけれども。というような形はどうでしょう。

【市長】

対応させるということだね。事務局はどうですか。

【教育監】

「安心して学ぶことができる」というところにかけていたのですが、元々性質が違うものなので、意図として使いやすいいということであれば二つに分けて整えさせていただくということで。

【市長】

他に、稲垣委員。

【稲垣委員】

13ページなのですが、**基本方針1** どうしても就学前教育とか気になるので、これだけだと子ども達が楽しく関わって、主体的な活動と体験を充実させる就学前教育だけを推進するみたいなイメージになるので、日本語が分からないですけど、もうちょっと「将来を見据えた」とか、「9年間の何とかかんとかを見据えた就学前教育」というような、ちょっと考えてほしいと思います。

あと、14ページの**基本方針4**指導力向上のところですけど、さっきの話も色々踏まえると、「教員の指導力」と言うと、イメージは「英語の先生が英語を教える」になるので、「チーム学校」とか、さっきの佐藤さんがおっしゃってくださったように、「働き方」とかも交えて、もしかしたら「教員の指導力」という言葉がいいのか、「学校の指導力向上」とか、その辺も含まれているよというようなタイトルを検討できるといいかなと思います。

【市長】

タイトルですね。

【稲垣委員】

タイトルのところですね。「教員の指導力向上」、特にこだわってはいないですが、少しそういったニュアンスがあった方がいいかなと思いました。

【松香委員】

校長先生もね、含めてね。

【稲垣委員】

そうですね、組織の指導力とか、学校の指導力とか。

【市長】

あれ元はなんだっけ、これは。

【教育監】

元は「教員憲章の充実」と書いてあったので。例えば、「チーム学校の指導力向上」とか、そういうような組織として力がアップするみたいなニュアンスで書いたものなので。

【市長】

そういったニュアンスで書き直していただいて。

他にございませんか。はい、松岡委員。

【松岡委員】

2点ですけど、まず**基本方針1** ○が5個ありますが、この並びでいいのかなと。重点的なものから並べてあると思いますが、外国語それからICTは特定の教科なので、1か所に揃えてもいいのかなという感じを持ちます。

それからもう1点は、**基本方針7**ですけど、**7・8**は文化スポーツ関係ですが、**基本方針7**は「市民が」となっていて、子どもの視点がないので、なんか表現を入れるといいのかなと思います。**方針8**の方は学びという言葉が入っているので、なじみはあるかなとは思んですけど。

【市長】

なるほど。

【松香委員】

急に市民となっているということ？

【松岡委員】

はい。含まれるんだけど、この文面ではどうするのかという。

【市長】

子どもと文化とかね。まずは基本方針1がまとめられるかどうか。事務方どうですか。

【教育監】

おっしゃっていただいたのだと、外国語が2番目に来ていますので、これをICT教育の一つ前にずらしていくと違和感は薄れるかなと。すると全体的に「主体的・対話的に深い学び」が来て、「特別支援教育」が来て、「就学前教育」で、あと「外国語」「ICT」と。というところで整理させていただいて、就学前教育については先ほどあった小中との連携のところを少し記入させていただくというところで繋いでいくと、いいのかな。

【市長】

バランスよく考えて、もう一回出してもらおうと。

【教育監】

はい。ちょっと順番を、そんな感じで考えます。

【市長】

それから7・8の部分。これは元の計画から持ってきたから市民が出てきたという。この辺は、「子どもの」と入れるかどうか。

【観光文化課長】

そうですね、子ども向けにですね、実際に文化に出会う機会ということで、講座をやったりとかもございますので、確かにその指摘はですね、受け止めたいと。子どもっていう視点で表現を変えたいと思いますので、よろしく願います。

【市長】

「子どもが優れた文化や芸術に触れたり自己啓発をしたりする機会を提供します」

【松香委員】

「子どもも含め」

趣味、子どもも趣味にする。

【市長】

スポーツもそうね、これ。

【スポーツ振興・国体推進室長】

室としても一緒に、もう少し子どもさんを含んだというふうなまい表現があれば変えさせていただきたいです。

【松香委員】

「子どもから大人まで」

【スポーツ振興・国体推進室長】

おっしゃるとおりで、推進計画の方でも子どもから高齢者までとかという表現をしてますので、そういったところで、工夫したいと思います。

【市長】

この辺は、子どもの視点も含めて、しっかりと作っていただければと思います。ありがとうございます。

他に、何かある方は。

佐藤委員はいいですか。

はい、ありがとうございます。

これ以外の全体について何か、ご意見がある方がおられたら。

はい、ありがとうございます。

今日はですね、この大綱の素案について、貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。整えて、次回最終稿として出して、決めさせていただきますので、よろしく願います。

それでは事項書2、その他、何か事務局からありましたら。

【総務部次長】

次回についてでございますが、次回の会議では、今日ご議論いただきました内容を踏まえまして、市長から今お話しありましたように、教育大綱の最終稿をお示しさせていただき、それに加えまして、次年度に向けた協議をお願いしたいと考えております。日程は2月を予定しておりますが、詳細につきましては、改めてご連絡させていただきます。よろしく願いいたします。以上でございます。

【市長】

はい、ありがとうございます。これで本日の事項は全て終わりました。これを持ちまして、令和元年度第二回桑名市総合教育会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。